

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学校全体として落ち着いた生活が、学習にも良い影響を与えていると考える。</p> <p>・校内研究では、「つぼみタイム」の中に可視化を取り入れた取組や、年2回の授業参観推進月間の取り組みを通して、各学年や学年グループで工夫を凝らした授業づくりを行い、教師の授業力改善が進んでいると考える。</p> <p>・感染対策を取りながら少しずつ児童の活動が主体的で活発なものへとなっている。また、地域の行事に参加をしたり地域の方々と交流したりすることで、児童がふるさとの良さを知ることにつながると評価いただいた。体験したことを更に教科学習につながるようにしていきたい。</p> <p>・タブレット端末を活用した授業や取組がかなり進んでいる。話し合いやまとめの場面、復習の場面など効果的な使用のあり方を更に研究していきたい。</p>
2 学校教育目標	自ら学び 心豊かに 笑顔輝く 津保美っ子の育成
3 本年度の重点目標	<p>① 家庭・地域とのつながりを大切にしながら育む豊かな心（出番・役割・承認）の醸成</p> <p>② 児童がより楽しくわかる授業づくりと校内研究の充実</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○県学習状況調査等で、すべての領域において「おおむね達成」する。 ○学習アンケートで「学習した内容をふだんの生活の中で、話したり書いたりすることに生かしている」と回答した児童80%以上。	・対話交流活動「つぼみタイム」の充実、児童が主体的に学ぶことができる環境を整える。(思考を可視化する話し合い活動) ・校内研究、授業参観推進月間、日々の情報交換等のチーム力によって、個々の指導力を高める。 ・基本的学習過程を揃え、統一した指導方法で取り組む。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「考え、議論する」道徳授業の実践。 ○年6回の人権教室の実施と充実。	・学校全体で、計画的・継続的に児童の心に届く人権教育や道徳に取り組む。						
	●いじめの早期発見、積極的認知、早期対応体制の充実	○学校生活を肯定的にとらえている児童80%以上。 ○いじめを見逃さないという職員の意識の涵養。	・いじめ・心を考える日(毎月10日)と連携させた「月の心」アンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。 ・月1度の児童連絡協議会における、いじめ、問題行動等の全職員の共通理解。 ・事態の内容や問題を的確に把握し、情報連絡を密にし、その後の方向性を明確にする。またスピード感のある指導・対応を行う。児童や保護者への周知・理解をきめ細かに行う。						
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について回答した児童生徒80%以上	・児童の自主性や意欲を尊重した学校行事、児童会活動、学級活動を充実させる。						
	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●1週間の総運動時間を「0分」と回答する児童を全国平均(男子3.6%、女子4.7%)を下回る。 ●自分の体や健康に関心をもつ態度を育てる。	・クラスごとに「スポーツチャレンジ」の目標を定め、運動に取り組ませる。 ・全校で「なわとび期間」を設定する。 ・衛生検査等の結果を児童に知らせ、意欲的な取組にする。歯みがきの習慣化を促す。 ・「給食週間」「ふるさと食の日」の実施を通して、児童や保護者へ食の大切さを周知する。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●慣習にとらわれず、業務のやり方などを工夫し、超過勤務時間を、昨年度より削減する。 ○各担任の学級・教科経営をサポートするメンターの学校組織を営み、負担を和らげる。	・校内働き方改善委員会で、働き方改善のアイデアを出し合い、適宜取り組みを生かす。 ・コミュニケーションや同僚性を大切に、働きやすい活気のあるチーム牛津小(職場)にする。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○特別支援教育の充実 ※特別支援学級9学級(知的2、情緒6、病弱1) ○UD教育の実践	○児童連絡協議会を月に1回、拡大児童連絡協議会を学期に1回行い、児童理解と対応策を全職員で確認する。 ○UDの視点を取り入れた授業づくりの研修会を行い、実践的指導や支援の方法を習得する。	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を組織的・継続的に行う。 ・全ての職員が特別支援教育・UD教育に関する理解や知識を深めると共に、具体的かつ実践的指導や支援の方法を習得できるよう、研修の充実を努める。						
○志を高める教育	◎ふるさとを愛する教育	○牛津町が好きと回答した児童が90%以上 ○体験活動・見る・ふれあうなどの学習がすぎと回答した児童が90%以上	・地域人材を活用した学習活動を充実させる。「地域に学ぶ学習」の充実。 ・児童によるボランティア活動、社会支援活動等、社会への貢献できる取組を企画する。						

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------